

## 第20回教育相談全国研究集会報告(2013年11月14日・15日開催)



教育相談全国研究集会第一日目は「スクールソーシャルワーク～教育と福祉の連携による子ども支援～」というテーマで、日本社会事業大学大学院の山下英三郎先生の講演が開催された。山下先生は、現代の子どもの特徴として情報化、二極化、無縁化の三つをあげられ、子どもの置かれている環境がグローバル化し、ネット化している実態を話された。スクールカウンセラーがインドアでスクールソーシャルワーカーはアウトドアにあたるとその役割を説明された。暴力や、いじめなどの言動には全て意味があり、その行動を理解することが大切であり、真摯に耳を傾け、子どもの人格を尊重するという子どもの側から考える姿勢が必要だと語られた。問題行動として出てくる行動が、コミュニケーション不足からくるのか、不器用さからくるのか、生活環境からくるのか、その背景を見ることから子ども理解は始まる。子どもの顕在的な力、潜在的な力が発揮できるように支援が必要だという指摘は相談員として大切な姿勢である。問題の複雑化にともないチームワークが必要になり、多様なサポートの形成という点でスクールソーシャルワーカーが重要な役割を果たす。日本の学校で、配置の増加が課題だと痛感した。

その後、グループに分かれて講演を受けての感想などを交換してテーマの内容を深めた。

(文責：徳永 恭子)

### テーマ1

#### 相談室を充実させるために

～各相談室・相談員のとりくみ報告と意見交換～

司会：第一会場 服部相談員 第二会場 浅見相談員

相談室を充実させるために（各相談室・相談員のとりくみ報告と意見交換）というテーマの基に、二つの会場に別れて活発な意見・情報交換及び議論が実施された。

第一会場では、相談室普及のための宣伝方法、相談員対象の研修、相談内容の多様さ、相談員の役割、学校種毎の課題、等について話し合われた。

第二会場では、各相談室の現状と課題をテーマとして話し合いが行われた。相談件数が減少傾向にあること、どのように相談員の研修と育成を実行しているのか、教職員からの相談への対応法について、等が具体的なテーマであった。

両会場ともに、宣伝普及活動に関して、各校へのカード配布・一般向けの講演会開催・メール相談等の実践例が報告された。研修活動に関しては、定期的な研修会・事例検討会・教職員との交流会等の取り組みが紹介された。また、教職員からの相談に対応することの大切さが話し合われた。

教育相談活動はクライアントの心の問題に応じて、目的・対象・方法が広範囲に及ぶ。それに対応した実践及び理論活動が求められている。

(文責：関口 幸男)

### テーマ2

#### 関連機関（児童相談所等）との連携が必要になったケースにかかわる事例検討

司会：第一会場 徳永相談員 第二会場 御子柴相談員

このテーマで二つのグループに分かれて情報交換と事例検討を行った。不登校の子どもやアスペルガーの子どもを施設、児童相談所、病院などとタイアップして対応した事例が出された。フリースペースを作って若者の居場所づくりを行っているグループと連携をとっている活動や青少年サポートセンターや若者支援センターなどと連携をとっているケースなども紹介された。いじめの問題を学校とその他の社会機関と一緒に取り組んだケースも紹介された。しかし問題は、対応のために誰がコーディネートするかである。情報をつなぐ役割、孤立しない方向で支援する役割を果たす人が必要である。そのためにもスクールソーシャルワーカーがせめて市町村段階で配置されると連携がスムーズにいくと考えられる。

各地の教育相談室が、地元のそれぞれの機関や人材を活用していくことも大切だが、社会的な体制として学校、地域、行政、大学、市民活動団体などどのような連携を取って行けるかが今後の課題になる。そのために、それを専門にコーディネートできるソーシャルワーカーが必要だという意見が出された。

(文責：徳永 恭子)